

学年ごとに課題を設定

笠野原小学校

(鹿屋市)

「構成を学ぶ」「意見を交わし表現する」など、学年ごとに課題を設定



新聞を音読して分からない単語などを確認する児童ら

＝鹿屋市の笠野原小学校

定する。実践校となるのは3年目。担当の作井由希乃教諭(31)は「段階的に国語力と論理的な思考力を養う狙いがある。新聞が授業になじんできた」と手応えを感じる。

5、6年が活動する委員会でも新聞を積極的に活用する。放送委員会では、動画投稿サイト「YouTube」でアナウンサーの発音を聞き同じ記事を音読。広報揭示委員会は委員が興味のある記事をスクラップ。それに対する考えを書いて掲示し意見を共有する。

スクラップは日々の宿題にも取り入れる。児童が選ぶ記事は、観光から防衛費増額までさまさま。6年の山之内巨君は「読むことへの抵抗感は薄れた。気になる記事に触れ、考え方が広がった」と話す。

(寺師周平)

かごしま



NIE実践校

視野広げ調べる練習に

錦江湾高校

(鹿児島市)

実践校2年目。視野を広げ問いを設定し関連内容を調べる練習と



週1回の「読解力トレーニング」で記事について調べる生徒ら

＝鹿児島市の錦江湾高校

して、NIE活動に取り組む。併せて、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校としての課題研究にも役立てる。

全校では週1回、朝の自習時間約10分を「読解力トレーニング」に設定。記事の内容や言葉についてタブレット端末で調べ、感想を書く。

普通科1年生は、テーマ別に壁新聞も制作する。遠矢^{ひとせ}緋雪さんのグループは選挙を題材に選択。昨夏の参院選の新聞記事のほか、若者の投票行動について国内外の状況を調べた。遠矢さんは「日本の若者の投票率向上について自分たちなりに考察できた」と話す。

末吉一穂教諭(29)は「活動で身に付けた力を生かし、探究を深めてほしい」と話した。(小手川美子)